

## STSフォーラム中南米カリブ地域ハイレベル会合

### 林芳正外務大臣ビデオ・メッセージ（仮訳）

2021年12月8日

エブラル・メキシコ外務大臣、  
小宮山 STS フォーラム理事長、  
御列席の皆様、

おはようございます、そしてこんにちは。

京都での STS フォーラム年次総会に頻繁に参加した者として、STS フォーラムの中南米カリブ地域で初となる本会合に参加でき、光栄です。コロナ禍の中、本会合の実現にご尽力されたエブラル外相のイニシアティブと STS フォーラム及び関係各位の努力に敬意を表します。

中南米カリブ諸国は日本にとって自由、民主主義、法の支配など基本的価値を共有する重要なパートナーです。科学技術・イノベーションに関しても、日本と中南米カリブ地域は、これまで多岐にわたる協力を行ってきています。本日は、科学技術外交の3つの側面を踏まえつつ、連携の更なる強化に向けた方策について議論したいと思います。

まず第1に、「外交の中の科学」です。これは外交課題でもある地球規模課題の解決に科学技術を活用する、という側面です。例えば、我々はこれまで、日本と中南米地域の共通の課題である地震や火山噴火の減災技術の向上や、持続可能な食料生産や水産資源利用のための研究開発等のため、JICA 等によるSATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム）と呼ばれるプログラムを通じて共同研究等の協力を行ってきています。

また、第2に、国際的な科学技術・イノベーション協力の促進と各国における科

学技術・イノベーションの振興という「科学のための外交」の側面があります。好事例は情報通信分野です。日本方式の地デジが中南米地域で広く採用されたほか、さらに5Gネットワーク構築や海底ケーブルについての協力も今後見込まれる等、日・中南米間の官民連携が進んでいます。

第3に、科学技術力や研究者のネットワークをソフトパワーとして良好な国際関係の構築に活用する「外交のための科学」という側面があります。明らかに、長い実績のある研究者や留学生等の人的交流は、日・中南米の友好関係や相互理解に貢献しています。

気候変動や新型コロナウイルス感染症といった地球規模課題は、人間の安全保障やSDGsの達成に悪影響を及ぼしており、我々は今後とも共に立ち向かわねばなりません。その中で、科学技術・イノベーションが果たす役割はますます重要になっています。

STSフォーラムは、そのための叡智を結集するプラットフォームを提供し、科学技術外交のネットワークを拡大・進化させる上で貴重なアセットであり、数多くのネットワークを束ねるものとして一層機能していくことが期待されます。

本日の会合の機会を活かし、各国内の産官学連携のネットワークが、地域レベルや世界レベルで多層的に繋がり、より良く機能してシナジーを生み、我々の科学技術外交を全ての次元において一層促進するものとなるよう期待しています。また、日本と中南米の間で、具体的な協力プロジェクトが一層進展することを期待しています。

そして、近い将来、私が中南米カリブ諸国を訪問し、科学技術外交と具体的な協力プロジェクトの果実を目にすることを楽しみにしています。

御清聴ありがとうございました。

(了)